

愛知のとうがん

1 愛知のとうがんの出荷量

2020年産の本県の出荷量は1,360トン、出荷量は全国第2位となっています(表1)。また、県内では豊橋市でとうがんの栽培が盛んです。(表2)。

表1 とうがんの出荷量の全国順位
(2020年産)

順位	都道府県	作付面積 (ha)	出荷量 (t)	シェア (%)
1位	沖縄県	77	2,600	31.6
2位	愛知県	15	1,360	16.5
3位	岡山県	17	1,160	14.1
全国合計		203	8,220	-

(出典：農水省 地域特産野菜生産状況調査(隔年調査))

表2 県内のとうがんの生産状況
(2021年産)

順位	市町村名	出荷量 (t)
1位	豊橋市	1,244
2位	東海市	100
3位	田原市	62

(出典：愛知県(隔年調査))

2 「豊橋なんぶとうがん」について

J A豊橋南部琉球冬瓜同好会では、果実表面の着色ムラが少なく、光沢のある鮮やかな外観のものを選定して、「豊橋なんぶとうがん」というブランド名で出荷しています。

市場関係者からは、着色にムラがなく、傷が少ないため、量販店等でのカット販売時にロスが少ないことが高く評価されています。さらに、外観が綺麗であることから彫刻を施した飾り物としての需要や、料理の器として使用する需要もあり、他産地と比べて高値で取引されています。

「豊橋なんぶとうがん」は、2022年3月に地理的表示^{*}(GI産品)として登録されています。

^{*} 「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律(GI法)」に基づき、地域ならではの自然的、人文的、社会的な要因・環境の中で長年育まれてきた品質、社会的評価等の特性を有する産品の名称を、地域の知的財産として保護する制度

3 J A豊橋南部琉球冬瓜同好会について

(1) 組織の概要

- 設 立 1987年
- 会 長 鷺坂充康(豊橋市)
- 会 員 数 23名
- 栽培面積 11.7ha

(2) 主な出荷先(2022年実績)

- 京浜地区市場(約55%)
- 中京地区市場(約12%)
- 京阪神地区市場(約20%)



豊橋なんぶとうがん